

第 64 回会合の議論を踏まえた K D D I への追加質問及び回答

質問 1 今回、固定網について、資料 64－1 P5 及び参考資料 65－1 問 1 の回答において説明されたビジネスモデルの前提は、モバイルにおいても同様と考えます。であれば、今回の NTT 東西の主張は、モバイルビジネスにも当てはまると考えてよいですか。

(佐藤構成員)

(答)

- 一般的に、自らリスクを背負い設備投資や技術開発を通じて新たな付加価値により事業を創出しようとする場合と、それらを二次的に活用し別の事業に取り組む場合では、事業に対するリスクの多寡と収益性に違いがあることは自然であると思います。

従って、固定、モバイル問わず自己設置・接続と卸によるビジネスモデルには違いがあると考えます。

## 第64回会合の議論を踏まえたKDDIへの追加質問及び回答

質問2 音声接続料の算定に当たっては、各社ともネットワークや設備構成等が異なり、統一的な算定項目を設定することは困難であることは理解しています。しかし、NTTドコモがプレゼンされた「需要算定の方法」(スライド No. 18)において、トラフィックの算定方法が接続料水準に大きく影響を与えると指摘されており、実際の精算接続料の格差が、この算定方法の差に起因するのではないかと主張されています。KDDIとソフトバンクでは、音声に係る需要をどのように計算されていますか。トラフィックの区分とカウント方法を教えてください。

(辻座長)

構成員限り